

製品名: CPE ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09308**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	CPE
別名	CPE; Carboxypeptidase E; CPE; Carboxypeptidase H; CPH; Enkephalin convertase; Prohormone-processing carboxypeptidase
遺伝子 ID	1363.0
SwissProt ID	P16870
免疫原	抗血清はヒト CPE 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 271-320

背景

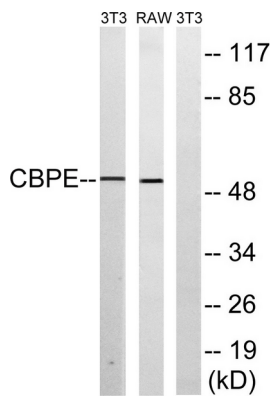
カルボキシペプチダーゼ E (CPE) ホモサピエンス この遺伝子は、メタロカルボキシペプチダーゼ M14 ファミリーのメンバーをコー

ドしています。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって成熟ペプチダーゼを生成します。この膜外タンパク質はC末端アミノ酸残基を切断し、インスリンを含むペプチドホルモンや神経伝達物質の生成に関与しています。このタンパク質は、ペプチダーゼ活性とは独立して、神経細胞の生存を促進する神経栄養因子として、またプロホルモンを含む調節された分泌経路タンパク質に結合する選別受容体として機能する可能性があります。この遺伝子の変異は、2型糖尿病に関連しています。 [RefSeq提供、2015年11月],触媒活性: ポリペプチドからC末端のアルギニンまたはリジン残基を遊離する。補因子: サブユニットあたり1個の亜鉛イオンに結合する。機能: プロホルモン処理において、エンドプロテアーゼによる最初の切断後に残存するC末端のアルギニンまたはリジンを除去する。プロインスリンを処理する。類似性: ペプチダーゼ M14 ファミリーに属する。細胞内局在: 膵島、副腎、下垂体、脳の分泌顆粒。 ,

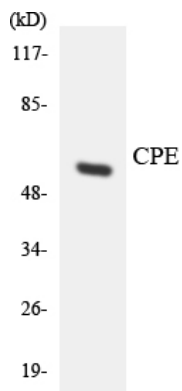
研究分野

1型糖尿病;

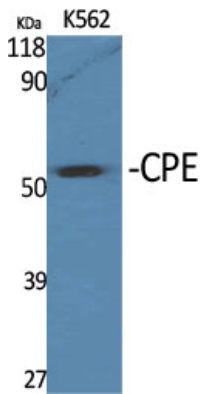
画像データ



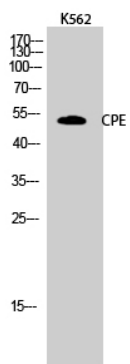
RAW264.7細胞およびNIH/3T3細胞のライセートをCPE抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CPE抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CPE ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



CPE ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析